

「だってもっと成長したいから!!」

—目標にむかってとりくみ、成長を実感できる子どもの育成—

I はじめに

II 実践のねらい

III 実践の方法

- 1 対象
- 2 基本的な考え
- 3 各実践のすすめ方

IV 実践の内容

- 1 三つの力に気付かせる活動「そうかあ。ぼくも書けるかも!!」
- 2 スーパーA計画書「目標の人に近づけた」
- 3 ミニミニトーク大作戦「もっといろんな考えを深めたいなあ!!」
- 4 スーパーA計画書2「次は笑顔で話したい」

V おわりに

第11分科会
自治的諸活動と生活指導
A 小学校

松下 裕哉 (名古屋・千鳥小)

研究の概要報告

1 県内の自主的な研究活動のとりくみ状況

中教審は2021年1月、『協働的な学び』の効果を高めるためには、学級経営を充実し、子どもが違いを認めて協力し合える学級づくりをすすめることが必要であると示した。よりよい学級はどのようにしてできるのだろうか。もちろん、教員の力ではなく、子どもたち自身が活躍することで素晴らしい学級は完成する。そのために、子どもの自主的・自発的な活動を保障することが大切である。

愛知県内では、多くの教員が子どもの「自主」を大切にしたい学びに重点をおいた教育にとりくんでいる。子ども自身が課題を発見し、解決することを目的にした自治的活動の実践が、多くの学校で積極的に研究されている。

第71次教育研究愛知県集会における本分科会での研究討論の主題を「たくましく生きる子どもを育てよう」と設定し、主題に迫るために次の3つの柱立てをもとにした全14本のレポートが報告された。

2 本次研究集会における主要な課題

- (1) 子どもの気持ちを大切に、実態を把握した上で、よりよい人間関係を築くためにどのような活動を展開していくのか
- (2) 心理的背景や発達段階をふまえ、子どもたち一人ひとりをどのように理解し、支援していくのか
- (3) どのようにして、集団の質を高めていくのか

(1)の柱立てにかかわるレポートは3本。子どもの多様な意見から合意形成をめざした学級会や意見の違いを明確にする板書の工夫、異学年交流による成果が報告された。討論では、学級会においては、受容的に相手の意見を聞くことの大切さや、相手の意見を理解することの重要性が話題となった。

(2)の柱立てにかかわるレポートは8本。学びの個別最適化、一斉学習からの脱却をめざす授業、目標を掲げた学校生活、成功体験を重視したとりくみ、キャリア教育、ストレスマネジメントなど、他分野から適切に子どもを支援する実践が報告された。討論では、活動後の振り返りの重要性を指摘する意見が多数出された。また、自己肯定感を高めるには、自分自身を振り返ることと同時に、教員による継続的な支援の必要性も話題となった。

(3)の柱立てにかかわるレポートは3本。子どもの本音を引き出す実践、輪番制によりすべての子どものリーダー性をのばすとりくみ、「お試タイム」を設定し、学校生活の向上をめざした実践が報告された。討論ではタブレットパソコンを利用することで、考え方を共有したり、時間を効率よく使ったりするアイデアが出され、ICTのもつ可能性が話題となった。

全14本のレポート発表をもとにした質疑・応答・討論後、総括討論として、発達段階に応じた活動後の「振り返り」をより効果的なものにする工夫が話し合われた。同時に、目標の達成を判断する基準を教員が示すことが大切であり、さらに、子ども自身による個人内評価の必要性も語られた。多様な意見が出され、豊富な学びを提供する集会となった。

(竹川 慎哉・原田 康成)

報告書のできるまで

第71次教育研究集会「自治的諸活動と生活指導」分科会は、10月16日愛知県産業労働センターで開かれた。第70次教研までの成果と課題にたち「たくましく生きる子どもを育てよう」をテーマに、次の柱立てにより討議された。

- 1 子どもの気持ちを大切に、実態を把握した上で、よりよい人間関係を築くためにどのような活動を展開していくのか
- 2 心理的背景や発達段階をふまえ、子どもたち一人ひとりをどのように理解し、支援していくのか
- 3 どのようにして、集団の質を高めていくのか

数多くの具体的実践をもとに、問題点を掘り起こし、研究協議を積み重ねた。この報告書は、その成果と課題を中心に作成したものである。

助言者	竹川 慎哉 (愛知教育大学)	原田 康成 (岡崎・根石小)
教育課程研究委員	末次 志麻 (みよし・黒笹小)	西尾 盛二 (名古屋・東陵中)
	志知 佑太 (一宮・末広小)	小檜山 亮 (海部・暁中)
	太田 早織 (幸田・北部中)	齋藤 健司 (豊田・藤岡南中)
	神谷 絢香 (岡崎・六ツ美南部小)	鈴木 潤也 (豊田・若園中)
	羽根田知樹 (名古屋・平針南小)	浅野 和也 (西春・清州中)

報告書の要点

わたくしが受けもつ小学校6年生は、無気力な雰囲気は漂っており、自分から行動したり、新しいことに挑戦したりする子どもの姿は少ない。また、友だちどうしのかかわりも少なく、困ったときに友だちに助けを求める子どもの姿もあまり見られない。

これは、子どもに「自分の心と向き合う力」、「自分を高める力」、「仲間とつながる力」が十分に育まれておらず、自分の理想がどんな自分なのかを考えて行動していないためだと考えられる。

そこで、子どもがこの三つの力を高める意味を理解し「三つの力を高めて成長したい」という思いをもたせていくことが必要だと考えた。また、この三つの力を活用して、自分の理想に近付ける目標達成にむけたとりくみを行っていき、成長を実感できる子どもを育てていくことが大事だと考えた。そのため、次のような流れで実践にとりくんだ。

目標にむかってとりくみ、

成長を実感できる子ども

スーパーA計画書

目標
設定

計画
する

振り
返る

とり
くむ

三つの力に気付く

その結果、多くの子どもが自分の三つの力が高まったことや理想像に近付けたことを実感して喜ぶ姿を見せるようになった。また、表情や声は明るくなっており、最初に述べた学級の様子とは比べものにならないくらい、授業で積極的に発言をしたり、隣の席の友だちと楽しそうな表情で話し合ったりすることができるようになった。

I はじめに

本校は、愛知県名古屋市の南部に位置しており、天白川を挟んで東海市と隣接している。過去に伊勢湾台風で大きな被害を受けた地域であるが、人々のつながり、絆を大切に復興してきた校区である。現在は祖父母の代から住んできた人々と県外からの移住者で構成されている。また、外国からの移住者も多く、国際色豊かな校区にもなっている。

全校の子どもは212人で、学級数は10（内特別支援学級2）であり、小規模校である。

II 実践のねらい

現代の子どもたちは、人間関係の希薄化や社会的閉塞感が漂う中で、自分に備わっている能力を十分に発揮することができなかつたり、自分に自信がなく前向きにとりくもうとする意欲が低くなっていたりする傾向がある。経済産業省が提唱している「社会人基礎力の向上」においても仲間とともに困難な状況に打ち勝つ力や困難な状況を自分の力で乗り越えようとする力などが今日的な教育課題として求められている。

本校の子どもの様子を見てみると、無気力な雰囲気が漂っていることがとても気になった。また、自分から行動したり、新しいことに挑戦したりすることが少ないことや友だちどうしのかかわりが少なく、困ったときに友だちに助けを求めることが少ない様子も見られた。これは、子どもに「自分の心と向き合う力」、「自分を高める力」、「仲間とつながる力」が十分に育まれておらず、自分の理想がどんな自分なのかを考えて行動していないためだと考えられる。

そこで、子どもがこの三つの力を高める意味を理解し、「三つの力を高めて成長したい」という思いをもたせていくことが必要だと考えた。また、この三つの力を活用して目標達成にむけたとりくみを行っていき、成長を実感できる子どもを育てていくことが大事だと考えた。そのため、次のような流れで実践にとりくんだ。

III 実践の方法

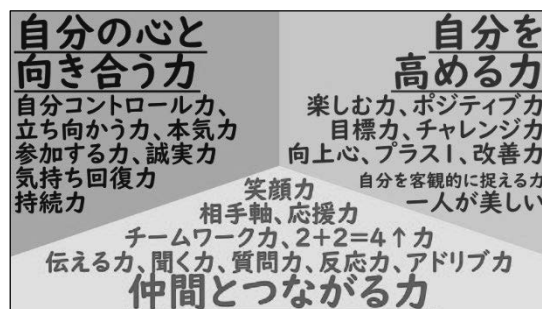
1 対象 6年生 33人

2 基本的な考え

わたくしは、目標にむかってとりくみ、成長を実感できる子どもを育てたい。成長を実感できる子どもとは、「自分の心と向き合う力」、「自分を高める力」、「仲間とつながる力」の三つの力を高めていき、理想の自分の姿に近付いていくことができる子どものことである。

「自分の心と向き合う力」とは、自分や周りのために、自分で自分をコントロールしたり物事に誠実にとりくんだりする力などである。「自分を高める力」とは、向上心や目標をもって新しいことにチャレンジしたり、自分の意見をもって行動したりする力などである。「仲間とつながる力」とは、相手の立場になって考えたり、対話を通して考えを深めたりする力などのことである。（資料1）

そこで、本実践ではまず、教員が子どもの言動を三つの力の観点でとらえ、子ども一人ひとりの長所に気付かせるとりくみを行う。次に、目標達成のプロセス（自分の理想像にむかって「計画を立てる」、「実行する」、「振り返る」、「新しい計画を立てる」ということを繰り返



【資料1 三つの力一覧】

すこと)をふませながら、三つの力を自分で高め、自分の理想像に近付かせていくことで、成長を実感できるようにする。

3 各実践のすすめ方

実践1 三つの力に気付かせる活動【常時活動】

【ねらい】 三つの力を高めることへのよさに気付かせ、子どもが「三つの力を高めて成長したい」という思いをもてるようにする。

- 【すすめ方】
- ① 教員による働きかけとそれに対する子どもの反応を想定し、自分の長所となるための例文をまとめる。「あなたの長所はこれだ!!一覧表」
 - ② 授業前に「あなたの長所はこれだ!!一覧表」を確認して、子どもの一人ひとりの言動に見当を付ける。
 - ③ 授業で、教員が子どものよい言動を見つけ、三つの力の観点に沿って子ども一人ひとりの長所を伝える。

【留意点】 子どもの長所が三つの力のうちのどれかに偏らないように気を付ける。また、子どもが教員の伝えたことを自分の長所としてとらえられるよう、黒板に可視化する。

実践2 スーパーA計画書

【ねらい】 理想の自分と今の自分を、三つの力をもとに比較して、理想に近付くために必要な行動を考えて実行する力を高められるようにする。

- 【すすめ方】
- ① 卒業時の理想の姿をみんなで話し合い、自分が一番なりたいと思う理想像を見つける。
 - ② 理想像にむかって目標達成のプロセス（「計画する」「実行する」「振り返る」の繰り返し）を1週間行う。
 - ③ 1週間の自分を振り返って変容をとらえる。
 - ④ 振り返りをもとに新たな計画（プラス1）を立てるよさを感じられる「ミニミニトーク大作戦」にとりくむ。
 - ⑤ 自分の理想像にむけて、目標達成のプロセス（「計画する」「実行する」「振り返る」「新たな計画を立てる」の繰り返し）を1週間行う。
 - ⑥ 1週間の自分を振り返って変容をとらえる。

【留意点】 理想像を見つけるときは、コンパッションゴールになるようにする。計画するときには三つの力を意識する。振り返りは具体的な自己評価と他者評価をする。新たな計画を立てるときは、前日の振り返りを参考にする。

IV 実践の内容

1 三つの力に気付かせる活動「そうかぁ。ぼくも書けるかも!!」

まず、教員による働きかけとそれに対する子どもの反応を想定し、自分の長所となるための例文をまとめた「あなたの長所はこれだ!!一覧表」を作成した。（資料1）

例文	子どもの反応	観点	あなたの長所
書きましよう	素早く書き始める	A	反応スピードが星5つです。全力で勉強にとりくもうとするやる気が表れています。
		C	すばらしい反応スピードです。集中して話をよく聞いている証拠ですね。
	理由も書けた	B	理由に自分らしさが表れますね。〇〇さんしか出ない考えです!一人が美しいですね。
	書けない	A	悩んでいるというのは、考えている証拠です。
		A	書けた、書けないではありません。どれだけ考えたか。考え続けていることがすばらしい。
		C	大丈夫。今書けなくても、後の友だちとの交流で書けばいいんですからね。

【資料1 「あなたの長所はこれだ!!一覧表」の一部抜粋】

授業前に、「あなたの長所はこれだ!!一覧表」を確認して、子ども一人ひとりの長所に見当を付け、授業を始めたことで、子どもの言動の中から多くの長所をとらえることができた。例えば、社会科の学習では次のように行った。(資料2) この授業の中で、考えることが苦手で自分の思いをなかなか表現することができないBがいた。そこで、教員はBが自分の長所は何かを気付くことができるように、話をすすめた。

教員：天下統一にむけて働きが大きかったのは信長か秀吉か家康か。意見を書きましょう。

A：私は信長かなあ…。(立場と理由を書いている)

教員：理由に自分らしさが表れています。自分なりの意見がすばらしいです!!

(観点B自分を高める力)

B：難しい…。(書けずに悩んでいる)

教員：悩んでいるのは、考えている証拠です。大丈夫。今書けなくても、後の仲間との交流で考えがもてればいいですからね。

(観点A自分の心と向き合う力)

教員：では、近くの人と話し合ってみましょう。

A：私は信長だと思います。なぜなら、新しい考えをもたらしたのは信長だと思うからです。

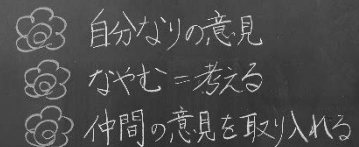
B：そうかあ。ぼくも書けるかも!!(友だちの考えを聞いて、理由をノートに書いた)

教員：みなさん。Bは仲間話を聞いてノートに理由を書きました。仲間の考えを取り込もうと真剣に話を聞いたBはすばらしいですよ!!

大きな拍手を!!

(観点C仲間とつながる力)

B：ありがとう。(照れくさそうな表情で)



自分なりの意見
なやむ=考える
仲間の意見を取り入れる

【資料2 教員と子どもの会話】

今回の授業で長所に気付かせたことで、Bは他の授業でも学習にねばり強く立ちむかえるようになっていった。Bは三つの力の中の「観点A自分の心と向き合う力」を高めるよさに気付いたことで自分なりに行動を変化していこうとすることができたと考える。他の子どももBと同様に多くの長所に気付き、三つの力を高めていくことができた。

2 スーパーA計画書「目標の人に近づけた」

実践1で、子どもたちは三つの力の意味を理解したことで「三つの力をどこで使えばいいのかな?」や「他にもいろんな力を身に付けたいな」などの声があがった。そこで、教員は三つの力をもとに比較して、行動することができるように、自分の理想とする姿は何なのかを考えさせ、今の自分から理想に近づくために必要なことは何かを考えさせた。

教員：卒業する時、どんな自分になっているとうれしいですか?

B：自分でできることを増やしたいかな。

A：私は勇気を与える人になりたいです。

C：周りを応援できるようになりたい。

教員：(笑顔) でみんな、すてきな意見だね。すべてが正解ですよ!!

全員：ふ～ん。(難しそうな表情)

教員：今出てきたものの中から、一番めざしたい姿を選びましょう。その姿からみんながこれから設定する目標や計画を立てていこう!!

B：よ～しがんばって書いてみよう!!

教員：がんばってください!!

また、友だちからの励ましのコメントは、次に「もっとみんなのためにがんばろう」や「自分の理想に近付いていこう」という気持ちを高めさせることにつながったと考える。

『スーパーA計画書』に1週間とりくんだ後に書いた感想では、自分が成長できたことや友だちから書かれたコメントがうれしかったと記述する子どもが多かった。(資料6)

★ スーパーA

★ 目標の人に近づけたと思った。そのためは仲間とつながる力が大切だと思った。

◆ コメントもうれしかた。自分の良いところをたくさん見つけてくれていた。

・次からは目標をもっとグレードアップ
 思ったより上手くい、た。
 ・チームワークが大切。

★ スーパーA計画はもめていしきしていけてもくみうまで近づくとかが来た

・書いていて自分こが成長したのか!と目で見て楽しかった。成長は嬉しいし、うれしいですね

◆ 仲間のアドバイスがうれしかった。

・最高を考えて書いていこうして最高になろう

・スーパーAになる事は楽しいし周りの人も楽しそう!

名前 かがねおとから じつすけ!

★ このように、「目標に近付けたこと」を記述した子どもは26人(79%)いた。

◆ このように、「友だちのコメントのうれしさ」を記述した子どもは29人(88%)いた。

【資料6 『スーパーA計画書』に対する子どもの感想】

理想像にむかって目標達成のプロセス(「計画する」「実行する」「振り返る」の繰り返し)を1週間行ったことで、子どもたちが、「三つの力を活用したことで自分の理想に近付けた」と成長を実感することができた。しかし、子どもの多くは、高い自己評価を付けたことで満足して終わってしまい、さらに三つの力を高めていきたいという気持ちが薄れてしまった。そのため、振り返りの内容をもとに、新しい計画を立てようとする姿はあまり見られなかった。資料4のCのように、振り返りをもとに新しい計画を立てた回数は、学級全員の振り返りのうち23回(14%)だった。そこで教員は子どもたちがより自分の理想に近付くために、振り返りの内容をもとに新たな計画を作らせる工夫が必要だと考えた。

3 ミニミニトーク大作戦「もっといろんな考えを深めたいなあ!!」

実践2からの課題であった、振り返りの内容をもとに、新たな計画を考えさせるため、新しい計画を立てることのよさを味わわせることにした。

学級活動の時間に『ミニミニトーク大作戦』と称して、友だちと話し合うとりくみを行った。この活動は、振り返りをきちんと行い、その振り返りをもとに新たな計画を立てるとりくみである。テーマは「無人島で生活するなら、どの道具を持っていきますか」にした。

1回のトーク時間を5分に設定し、トークが終わる度に振り返りを行うことにした。振り返りでは、自分の言動のよかったところと課題、次のトークで意識したいことを考えるようにした。トークでの人数に制限はなく、仲のよい集団どうしや今まであまりかかわりをもたなかった子どもたちどうしなど、子ども自身が考えて班をつくるように伝えたところ、子どもたちは楽しそうに班をつくり始めた。

このトークの中で、1回目の『スーパーA計画書』で振り返りや課題、新しい計画を立てることができなかったDがいる班のトークの様子をうかがった。

D：何を持っていきますか？

E：サバイバル本かなあ。

D：そうなんです。

F：でも、本を持って行って、本当に生きていけるのかな？ぼくだったら、一週間分の水を選ぶなあ。

D：そうですねえ。でも…僕は小型ナイフです。

E：ふ～ん…どれも必要な感じだね。

1回目のトークを終えたところで教員は「今回のトークでの自己評価と理由を書きましょう」と伝えた。すると、Dは自己評価を60点とし、理由を「自分も相手もあまり考えが深まらなかった」とした。教員が次のトークで考えが深まるように「相手の意見に質問してみるといいですよ」と伝えたところ、Dは「その考えはなかったなあ。ありがとう先生」と、お礼を述べた。その後、Dは「次は質問をして自分の意見も伝えたい」という新しい考えを設定することができた。新たな考えを設定した子どもは、1回目とは異なるトーク班をつかって、2回目の『ミニミニトーク大作戦』にのぞんだ。

G：生きるためには水が必要です。だから、1週間分の水が必要だと思います。

D：1週間分の水も確かに大切ですが、1週間で水はなくなってしまいます。その後はどうしますか？

G：救助を待ちます。

D：確かに水がたくさんあれば、救助を待つ間、安心できますね。しかし、救助が来なかったときのことを考えましたか？

A：どういうことですか？

D：救助が来なければ、無人島で家を作ったり、料理をしたりしないといけません。

G：確かに。

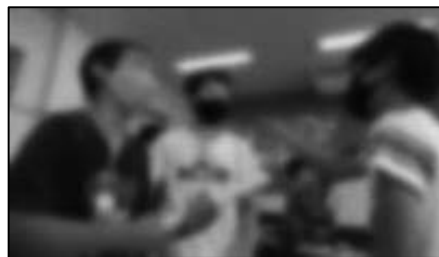
D：そんな時に小型ナイフは役立つし、ずっと使えます。だから、小型ナイフを持っていく方がよくないですか？

G：確かに、小型ナイフいいですね。私も小型ナイフにします!!

D：やった!!一緒に仲間を増やそう!!

このように、Dは1回目の反省をふまえて、相手の考えに質問をしながら、自分の考えである「小型ナイフ」のメリットを伝えることができた。また、他の班のトークでも「スマートフォン、水、サバイバル本、ライター」など多くの意見が出て、話し合いは大いに盛り上がり、教室の雰囲気は一気に賑やかになった。その後の振り返りで、Dは2回目の自己評価を90点にした。理由は「質問をすることによって、相手の考えを知ることができたし、自分も小型ナイフへの考えが深まった」と記述することができた。

さらに、自分の考えを深めたいと考えたDは「次はライターやサバイバル本を主張する友だちとトークしたい」と、次の『ミニミニトーク大作戦』にのぞんだ。3回目の振り返りでは、自己評価を110点まで上げることができた。Dは教員に「もっといろんな考えを深めたいなあ!!このトーク、楽しいです!!」と、うれしそうに話した。他の子どもからも「先生、顔が熱いです!!考えを深めるってめっちゃ楽しいですね!!」という言葉が聞かれ、教員は子どもが『ミニミニトーク大作戦』を通して、自分の考えを深めていく様子を実感することができた。(資料7)



【資料7 トークの様子】

4 スーパーA計画書2「次は笑顔で話したい」

『ミニミニトーク大作戦』で、子どもが振り返りをもとに、新たな計画を立て、考えを深めることができたため、教員は子どもたちに「次のスーパーA計画書でも、振り返りをもとに新しい計画を立てていこう」と伝えた。そして、子どもたちが振り返りを次に生かすことができるよう、振り返りの欄に「プラス1するために、次は〇〇したい!!」と、書き込める欄を増やした。また、『スーパーA計画書2』にとりくむ前に、まず、「前はどんな1週間だったか」、「何を目標にどんなことにとりくんだか」、「その結果、どんな成長ができたか」をペアで話し合った。(資料8)

C：前回の目標と意識することは何でしたか？

D：前回の目標は「周りの人に笑顔を与える」でした。目標を達成するために意識したことは、自分が笑顔で話したり、友だちの立場になって考えて話したりすることでした。

C：やってみて、どうでしたか？

D：友だちからのコメントがうれしかったし、やる気が上がりました。「周りに笑顔を与える人」は結構できたから、今週は「周りにチャレンジを与える人」にしたいなあと思っています。チャレンジして、成長した方が、もっと笑顔になれると思うからです。

C：レベルアップですね。きっと、Dならできると思います。がんばってください。

【資料8 ペアでの話し合い活動】

前回のスーパーA計画書で「周りの人に安心を与える」という目標を立てて、「仲間とつながる力」の中の「応援力」を高めたCは、この話し合いの中でも、Dが目標達成できるように応援していた。教員はこの様子を見て、今までのとりくみが子どもたちに定着しつつあることを実感することができた。

この話し合いの後に、Dは「周りの人にチャレンジを与える人」という目標を立て、「算数で難しい問題がきたら答える」という計画を立てた。(資料9)

残念ながら、予定していた算数ができなくなってしまった。Dはもともととりくむ意欲は高かったが、急な変更や経験が乏しい活動には消極的で諦めがちであった。そのため、教員は「Dはちゃんとできるかなあ」と不安になっていた。しかし、これまでの実践を通して成長してきたDは高め

<p>周りの人にチャレンジを与える</p> <p>①今日伸ばしたい方は？ ②どんなことを意識して行動したい？③その理由は？</p> <p>① チャレンジ力 ② 算数でむずかしい問題がきたら答える。 ③ 自分がチャレンジすると、他の人もチャレンジしてくれと思うから。</p>	<p>1週間の目標(理想)</p> <p>三つの力のうちの「自分を高める力」を意識している</p> <p>具体的な行動計画と理由を書いている</p>
--	--

【資料9 Dの今週の目標と一日の計画】

たい力の「チャレンジ力」を十分に発揮することができるようになっていた。Dは外国語科の授業で積極的に挙手をして発表したり、体育科のマット運動の授業で果敢にチャレンジしたりしていた。

(資料10) 予定が変わっても自分の計画を投げ出すのではなく、自分の成長ためにがんばるDの姿を見て、教員はDには「自分の心と向き合う力」が育まれているなとうれしくなった。



【資料10 Dの様子】

一日のとりくみを終えたDは次のように振り返った。(資料11)

① 目標に近づけた? 伸ばしたい力は伸ばせた? 0 1 2 3 4 5	自己評価の点数
② 点数の理由は? (頑張ったことや小さな変化・成長を見つけよう) 外国語で少しむずかしい問題 がきたけど、あきらめずに問題 を解いたから。	よかったところを「いつ」 「だれが」「何をした」で 記述している
③ プラス!するために、次は〇〇したい! ディベートのとき、笑顔で話せ ば、相手も安心してチャレンジでき ると思うから、次は笑顔で話したい。	高い自己評価で満足して 終わるのではなく、新し い計画を考えている

【資料11 Dの振り返りとプラス1】

前回は、次の計画を立てることができなかったDが、チャレンジ力を意識して行動できたことに満足して終わるのではなく、「笑顔で話せば、相手も安心してチャレンジできると思うから、次は笑顔で話したい」と次の新たな計画を設定することができた。また、この

新しい計画では、高めたい力として「仲間とつながる力」の「笑顔力」を設定することができている。さらに、この後の友だちとコメントを書き合う活動では友だちのコメントに対してDから返事が書かれるようになった。(資料12)

ディベートのときに一斉に、 やってくれてありがどうござい ます。笑顔だったのが、話し やすかったです。	Dへの感謝と具体的な よかったところを伝 えている
D さ人はきちんとして くひょうとおりにチャレンジし ていて、いいと思いました。 ぼくも D さみ見たに なりたいと思いました。	自分の思ったこととD への憧れの気持ちを伝 えている
by 名前 (☺)	Dから友だちへ、励まし の言葉を返している

【資料12 活動班の友だちからDへのコメント欄】

友だちどうして励まし合う子どもの記述から、仲間と協力して一緒に目標に近付こうとする思いが感じ取れてとてもうれしく思った。教員は1週間の活動を終えての感想を子どもたちと一緒に分かち合った。

教員：みんな、よくがんばりましたね。そして、いろんな力を高められましたね。スーパーA計画書を2回とりくんでみて、どうでしたか？

B：ぼくは苦手な学習に諦めずにとりくめるようになってきたよ。歴史の勉強が楽しいよ!!

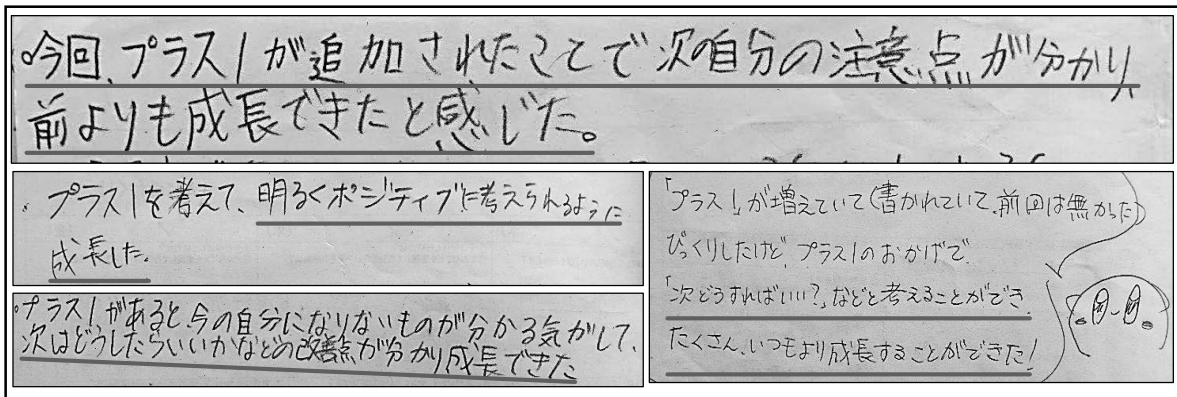
C：算数で教えた友だちがテストでよい点数を取って、一緒によろこべてうれしかったです!!

D：学習発表会の練習がいい調子だけど、今はさらに新しいアイデアを提案しています!!
だってもっと成長したいから!!

教員：これからも目標に向かってとりくんでいてほしいです。

全員：がんばりま〜す。(笑顔で)

学級での子どもたちとの分かち合いの後、『スーパーA計画書』のプラス1に対する感想を書かせた。感想からは、子どもがプラス1のよさや自分の成長に気付いていることがわかった。(資料13)



【資料13 『スーパーA計画書2』を終えて、プラス1に対する子どもの感想】

このように、プラス1のよさを記述している子どもは24人いた。また、『スーパーA計画書』の1回目と2回目を比べると「振り返りのときに、次の計画を立てた回数」や「自己評価の点数」が増えた。(資料14)

	1回目	2回目
次の計画を立てた回数	23回 (14.1%)	117回 (74.5%)
自己評価の平均点数	4.0点	4.2点

【資料14 『スーパーA計画書』の1回目と2回目の比較】

V おわりに

今回の実践を通して、多くの子どもが自分の三つの力が高まったことや理想像に近付けたことを実感してよろこぶ姿を見せるようになった。この実践を続けたことで、子どもの表情や声は明るくなっており、最初に述べた学級の様子とは比べものにならないくらい、授業で積極的に発言をしたり、隣の席の友だちと楽しそうな表情で話し合ったりすることができている。また、学級の活動や休み時間でも、子どもどうしがかかわり合いながら協力して過ごしている様子が増えてきている。

しかし、今回の実践を通して課題も見つかった。それは、今の自分をとらえる力を高める手だてが不十分だったことである。今の自分をとらえる力とは、現在の自分の強みや課題、できることやできないことを多様な視点で明瞭にとらえる力のことである。

今後は、以下の2点を手だてとしてとりくむ必要があると考えた。

【今の自分をとらえる力を高めるための手だて】

① 三つの力の評価の規準を子どもと作成する

下記のような評価規準があることで、子どもは今の自分を客観的にとらえられるようになると思う。(資料15)

② レーダーチャートで自分の成長をとらえる

スーパーA計画書にとりくむ前にとりくんだ後で三つの力を評価規準に照らし合わせて自己評価をして、レーダーチャートに表す。1週間の成長を視覚的にとらえることで、より成長の実感がもてるようになると思う。

A (満足)	B (おおむね満足)	C (あまり満足ではない)	D (満足ではない)
誰にでも、笑顔で励まし、具体的なアドバイスができる。その結果、相手が前向きに行動する。	笑顔で励まし、具体的なアドバイスができる。その結果、相手が前向きに行動する。	励ましたり、アドバイスしたりできるが、相手が前向きになったかどうか分からない。	誰にも励ましたり、アドバイスをしていない。

【資料15 応援力の評価規準の例】

この力が高まることで、理想の自分と今の自分の距離をはっきりととらえることができ、具体的な計画を立てやすくなると思う。また、小さな自分の成長を自分自身でとらえられるようになることが、前向きにねばり強く目標にむかってとりくむ姿勢につながると考える。これからも目標にむかってとりくみ、成長を実感することができる子どもの育成にむけて、自己研鑽に励んでいきたい。